

学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

12月号



黒門

発行日 令和5年11月30日
発行者 台東区立黒門小学校
校長 石田 隆

「個別最適な学び」を実現する黒門小学校

副校長 岩崎 公慈

研究発表会 多数の参観者を迎え豊かな学びを実現

11月22日の研究発表会には区内外から多数の皆様が参集し、本校の公開授業を参観、研究発表を聞いていただくことができました。子供たちは元気に挨拶してお客様を迎え、生活科・総合的な学習の時間の学習には一人一人が自分の課題に没頭する姿を見せてくれました。参会者からは「さすが黒門小学校ですね」「一人一人の子供が学習活動に主体的に取り組んでいました」「勤務校で生かしたいです」といった言葉をたくさんいただきました。講師の白百合女子大学 人間総合学部 教授 中田正弘先生や台東区教育委員会からご指導いただき、価値付けていただいたことを基に、今後も授業改善を続けてまいります。

生活科、総合的な学習の時間で発揮した力や身に付けた授業の進め方を他の教科等にも生かしていくことが今後の課題です。引き続き「学びが変わる！学校が変わる！」ように、よりよく変わっていることを児童と教師が実感できるよう努めてまいります。

合理的配慮と「心のバリアフリー」

個別最適な学びを実現するためには、特性や学習進度などに応じて基礎的・基本的な知識・技能等の確実な習得をめざす「指導の個別化」と興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を保障する「学習の個性化」が図られることが必要です。

人は誰一人として同じではありません。様々な特性、得手不得手があります。時に特別な支援を要することも多くあります。そのような時に「合理的配慮」の考え方が重要になります。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行により、「障害者に対して不当な差別的取扱いを行うこと」が禁止されるとともに、国・地方公共団体(公立学校を含む)において合理的配慮の提供が義務付けられています。本校でも児童、保護者の方と相談をして個々のニーズに応じた教育の充実を図ってまいります。

「障害はその人個人にあるのではなく、周りを取り巻く環境にある」とも言われます。高齢者や障害者をはじめ全ての人が安全・安心して過ごしていけるようにするためには施設・設備のバリアフリー化を進めることはもちろん、相互理解を深め、相手を思いやる気持ちを発揮する「心のバリアフリー」を充実させることが重要です。

『心のバリアフリーハンドブック』は台東区の福祉課が作成し、全ての児童に配布される冊子です。5年生は総合的な学習の時間「上野のまちは WELL-BEING を感じられるまちなのか」でも参考図書として使用してきました。

「心のバリアフリー」の一層の推進を図り、自らの WELL-BEING を実現するとともに、学校全体・社会全体の WELL-BEING の実現を目指していく子供たちを育ててまいります。

